

# 野鳥との共存イメージ

## 城南中の浦田さんが入選

令和3年度愛鳥週間用ポスター原画和歌山県審査で入選となった、新宮市立城南中学校1年の浦田葵さん（1年）への賞状・記念品伝達式が14日、同校であった。

財団法人日本鳥類保護連盟が主催し実施。和歌山県内では、小学生、中学生、高校生から合わせて463点の作品の応募があった。このうち、県審査で特選9点、入選15点、佳作40点、計64点の入賞

作品を選んだ。東牟婁管内では浦田さんが唯一入賞した。

浦田さんは美術部に所属。同校の美術部員らは、各自興味があるコンクールに参加しており、浦田さんは同コンクールに応募。街中を題材に、野鳥が楽しそうにたわむれる風景を描き入選した。アクリル絵の具を使用した絵で、自然豊かな水辺にかわいらしい鳥が描かれており、絵を通して「愛鳥」を訴えた。

伝達式には東牟婁振興局健康福祉部の杉本善和部長が訪れ、浦田さんに賞状と記念品を手渡し、「非常に素晴らしい絵に感心しました。街中にい

くつもの鳥が楽しそうに遊んでいるのが魅力的でした。去年の作品を確認して、このような構図は今までなかった。愛鳥週間とは野鳥と人が共存していくというテーマです。人と野鳥、動物たちとの共存を考える機会に

していただければと思います」とたたえた。

浦田さんは「自分が選ばれると思っていなかったのだととてもうれしかったです」と感想を話した。

また、「鳥って身近にいるけど普段の生活であまり意識していない。でも大切な存在だと思って取り組んだ」と振り返った。

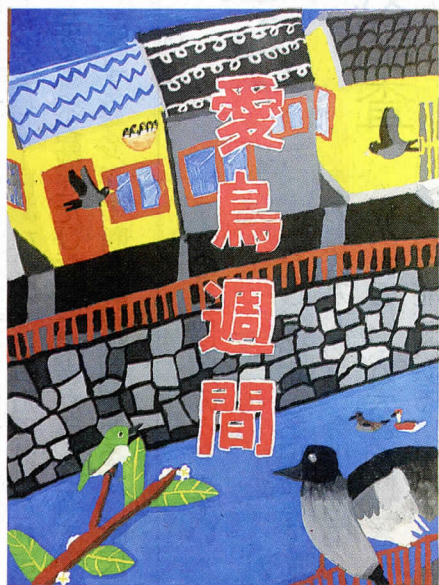
新型コロナウイルス感染症の影響で休校になるなど、部活動ができなかった期間があったが、学校が再開してから約2、3か月で作品を仕上げたという。

（石垣さやか）

### 愛鳥週間用ポスターコンクール



賞状を伝達した杉本部長と浦田さん



浦田さんの作品